平安時代

名前

問1　平安時代末期、平清盛が広島県の厳島神社を大規模に整備した背景には、海外との貿易を重視したことがあります。このとき清盛が航海の安全を祈願して行った貿易の名称と、社殿に採用された当時の貴族の住居様式として正しい組み合わせはどれか。（2025年 東京都公立入試 類似）

1. 日明貿易 ・ 寝殿造
2. 日宋貿易 ・ 寝殿造
3. 日明貿易 ・ 書院造
4. 日宋貿易 ・ 書院造

問2　9世紀末以降の日本において、国風文化と呼ばれる貴族文化が発達した背景の説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。（2026年 宮崎県公立入試 類似）

1. 南蛮貿易を通じてヨーロッパの文化が流入し、伝統的な日本の様式と融合したため。
2. 遣唐使が停止され、それまで取り入れられた唐の文化が日本の風土や感性に合うように消化・吸収されたため。
3. 日宋貿易によって中国から最新の仏教や学問が連続してもたらされ、それがそのまま定着したため。
4. 武士が政治の実権を握ったことで、それまでの貴族文化が否定されて素朴な東国文化が広まったため。

問3　平安時代の文化の変遷を整理した記録において、8世紀末から9世紀にかけては大陸の新しい文化が盛んに取り入れられていましたが、894年を境に大陸との公式な交流が途絶えることとなりました。この「大陸への公式な使節派遣の停止」を提案した、学問に優れた政治家は誰ですか。（2016年 京都府公立入試 類似）

1. 空海
2. 聖徳太子
3. 菅原道真
4. 藤原道長

問4　平安時代中期、藤原氏は自分の娘を天皇の后（きさき）にすることで、生まれた子（次の天皇）の母方の親戚として政治の実権を握りました。このような立場を利用して、天皇が幼少のときには摂政、成人した後には関白となって政治を行う仕組みを何といいますか。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 摂関政治
2. 執権政治
3. 武家政治
4. 院政

問5　平安時代中期、藤原道長・頼通の親子が約50年間にわたって実権を握った「摂関政治」の仕組みについて説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2022年 愛媛県公立入試 類似）

1. 自分の娘を天皇の后（きさき）とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の外祖父（母方の祖父）として勢力をふるった。
2. 天皇が位を退いて上皇となった後、院庁という役所を開いて、天皇に代わって直接政治を行う体制を整えた。
3. 地方の武士団を組織して軍事力を背景に朝廷を圧倒し、六波羅探題などの機関を置いて政治の主導権を握った。
4. 唐の制度にならって律令を整備し、公地公民の原則に基づき、班田収授法によって全国の土地と人民を直接支配した。

問6　788年に最澄（伝教大師）が比叡山に建立し、鎮護国家の思想に基づいて平安京の鬼門を守る役割も担った天台宗の寺院はどれですか。（2018年 和歌山県公立入試 類似）

1. 延暦寺
2. 金剛峯寺
3. 東大寺
4. 唐招提寺

問7　平安時代末期の東北地方において、奥州藤原氏が平泉に中尊寺などの寺院を相次いで建立した背景や目的として、最も適切な説明はどれか。（2019年 和歌山県公立入試 類似）

1. 源平の合戦で勝利した源頼朝を歓迎するため、鎌倉の武家文化を先取りして導入した。
2. 北方の敵対勢力に対する軍事拠点とするため、要塞としての機能を備えた寺院を配置した。
3. 遣唐使が持ち帰った最新の大陸文化を普及させ、朝廷に対して自らの権力を誇示しようとした。
4. 仏教の浄土信仰に基づき、前九年の役や後三年の役などの戦乱で亡くなった人々を供養し、平和な理想郷を築こうとした。

問8　平安時代の文化は、時期によって異なる特色が見られます。最澄による天台宗の開教、かな文字の発達に象徴される国風文化の隆盛、奥州藤原氏による中尊寺金色堂の建立という3つの事象を、起こった時期の古い順（初期・中期・末期）に並べた組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2023年 大阪府公立入試 類似）

1. 天台宗の開教 → 国風文化の隆盛 → 中尊寺金色堂の建立
2. 国風文化の隆盛 → 天台宗の開教 → 中尊寺金色堂の建立
3. 中尊寺金色堂の建立 → 国風文化の隆盛 → 天台宗の開教
4. 天台宗の開教 → 中尊寺金色堂の建立 → 国風文化の隆盛

問9　平安時代中期に貴族の間で発達した「国風文化」における生活様式の変化について、建築と衣服の観点から説明したものとして正しいものはどれですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）

1. 建築では日本特有の寝殿造が、衣服では男性の正装である束帯や女性の十二単などが用いられるようになった。
2. 建築では禅宗の影響を受けた書院造が、衣服では武士の礼装である直垂や素襖が一般的となった。
3. 建築では大陸の様式をそのまま取り入れた壮大な石造建築が、衣服では活動的な胡服が主流となった。
4. 建築では仏教儀式を独占するための寺院建築のみが発達し、衣服では庶民と同じ麻布の着物が推奨された。

問10　平安時代中期、藤原道長は自身の娘を次々と天皇の后（きさき）として送り込み、その娘が生んだ子が天皇に即位すると、自らは天皇の母方の親戚として政治の実権を握りました。このような立場を指す言葉と、道長やその子の頼通が行った政治体制の名称として正しい組み合わせを選びなさい。（2024年 奈良県公立入試 類似）

1. 執権（しっけん）の立場を利用した、合議制の政治
2. 院（いん）の立場を利用した、院政
3. 将軍（しょうぐん）の立場を利用した、幕府政治
4. 外戚（がいせき）の立場を利用した、摂関政治

問11　10世紀から11世紀にかけて、藤原氏が摂政や関白として政治の実権を握った時期、それまでの中国文化の影響を消化し、日本の風土や生活感覚に合わせた独自の文化が発達しました。この文化が形成された大きな背景として最も適切なものはどれですか。（2023年 香川県公立入試 類似）

1. 菅原道真の建議によって遣唐使が廃止され、大陸との直接的な交流が途絶えたこと
2. 平清盛が日宋貿易を推進し、宋の優れた技術や貨幣を大量に導入したこと
3. 聖徳太子が遣隋使を派遣し、仏教や大陸の優れた統治制度を積極的に取り入れたこと
4. 元寇によってモンゴル帝国の脅威にさらされ、国家意識が高まったこと

問12　平安時代初期、最澄が唐（中国）から日本に伝え、その後の日本仏教に大きな影響を与えた宗派と、その拠点となった寺院の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2014年 沖縄県公立入試 類似）

1. 時宗 ― 清浄光寺
2. 天台宗 ― 延暦寺
3. 真言宗 ― 金剛峯寺
4. 浄土宗 ― 知恩院

答え合わせ・解説

問1	答え 2 日宋貿易 ・ 寝殿造	平清盛は、大輪田泊（現在の神戸市）の修築などを行い、中国の宋との間で行う「日宋貿易」を積極的に推進しました。厳島神社は瀬戸内海の航路上の要所に位置していたため、貿易の安全を祈願する対象として重要視されました。その際、当時の貴族の住居様式である「寝殿造」を社殿建築に取り入れたため、海上に浮かぶような華麗で独特な空間が形成されました。書院造は室町時代以降に発達した様式であり、日明貿易は足利義満の時代に始まったものであるため、時代背景が異なります。
問2	答え 2 遣唐使が停止され、それまで取り入れられた唐の文化が日本の風土や感性に合うように消化・吸収されたため。	菅原道真の建議によって遣唐使が停止されると、唐の文化の直接的な流入が減少し、それまでに取り入れた文化が日本の生活や感情に馴染む形へと独自に変化していきました。
問3	答え 3 菅原道真	遣唐使の停止を提案したのは、文章博士（もんじょうはかせ）などを歴任した学者出身の政治家である菅原道真です。彼は宇多天皇に重用されましたが、後に藤原時平の策謀によって太宰府へ左遷されることとなります。選択肢にある最澄や空海は以前の遣唐使に同行した僧侶であり、藤原道長は後の摂関政治の全盛期を築いた人物、聖徳太子は飛鳥時代に遣隋使を派遣した人物です。
問4	答え 1 摂関政治	藤原氏は、天皇の「外戚（がいせき）」という母方の親戚関係を築くことで権力を世襲しました。藤原道長の時期にその全盛期を迎え、天皇を補佐する摂政や関白の職を独占したことから、この政治体制は摂関政治と呼ばれます。
問5	答え 1 自分の娘を天皇の后（きさき）とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の外祖父（母方の祖父）として勢力をふるった。	摂関政治は、藤原氏が天皇の「外戚（母方の親戚）」となることで権力を維持した政治形態です。道長などは娘を天皇に嫁がせ、生まれた皇子を天皇に即位させることで、その幼少期に摂政として、成人後には関白として実権を握り続けました。選択肢にある上皇が政治を行うのは「院政」、武家による支配は「武家政治」であり、摂関政治の特徴とは異なります。
問6	答え 1 延暦寺	最澄は唐で仏教を学んだ後、比叡山に延暦寺を建立し、天台宗を広めました。延暦寺は、仏教の力で国家の平和を維持しようとする拠点となり、多くの僧侶を輩出しました。これは空海が高野山に建立した真言宗の金剛峯寺とともに、平安時代における新しい仏教の形として、国家の安定に寄与することを大きな目的の一つとしていました。
問7	答え 4 仏教の浄土信仰に基づき、前九年の役や後三年の役などの戦乱で亡くなった人々を供養し、平和な理想郷を築こうとした。	奥州藤原氏の初代である清衡は、凄惨な戦乱（前九年の役・後三年の役）で家族や多くの人々を失いました。その経験から、敵味方の区別なく死者の霊を慰め、この世に仏教的な平和な社会（浄土）を具現化することを願い、中尊寺の建立を進めました。金色堂はこの精神的な象徴であり、当時の人々が抱いた「死後は極楽浄土へ行きたい」という強い願いが反映されています。
問8	答え 1 天台宗の開教 → 国風文化の隆盛 → 中尊寺金色堂の建立	平安時代初期には、最澄が天台宗を、空海が真言宗を伝え、密教が広まりました。中期には、遣唐使の廃止などを背景に日本の風土や生活に合わせた国風文化が栄え、かな文字によって『源氏物語』などの文学が生まれました。末期には、東北地方の平泉を拠点とした奥州藤原氏が、中尊寺金色堂に代表される独自の平泉文化を形成しました。
問9	答え 1 建築では日本特有の寝殿造が、衣服では男性の正装である束帯や女性の十二単などが用いられるようになった。	国風文化の時代、生活のあらゆる面で日本風の形式が整えられました。建築様式では、風通しを考慮した「寝殿造（しんでんづくり）」が貴族の住宅として定着し、衣服においても、日本の気候に合わせて重ね着をする「束帯（そくたい）」や「十二単（じゅうにひとえ）」といった貴族独自の装束が完成しました。これらは、中国の模倣ではなく日本の生活環境に適応させた結果です。
問10	答え 4 外戚（がいせき）の立場を利用した、摂関政治	藤原氏は、自分の娘を天皇の后にし、その間に生まれた子（自分の孫）を次の天皇に立てることで、天皇の母方の親戚である「外戚」として大きな影響力を持ちました。この手法によって、天皇が幼少の時には「摂政」、成人してからは「関白」という職に就き、政治の実権を独占する摂関政治を確立しました。藤原道長とその子の頼通の時代に、この政治体制は全盛期を迎えました。
問11	答え 1 菅原道真の建議によって遣唐使が廃止され、大陸との直接的な交流が途絶えたこと	894年に遣唐使が廃止されたことで、それまで唐から取り入れてきた文化を、日本の気候や貴族の生活習慣に合わせて作り替える動きが加速しました。この時期の文化は国風文化と呼ばれ、藤原氏の摂関政治による安定した社会を背景に、優雅で洗練された日本独自のスタイルが確立されました。
問12	答え 2 天台宗 — 延暦寺	最澄は、唐に渡って仏教を学び、帰国後に比叡山（滋賀県と京都府の境）に延暦寺を建立して天台宗を広めました。空海が和歌山県の高野山に金剛峯寺を建てて開いた真言宗と混同しないよう注意が必要です。延暦寺は「日本仏教の母山」とも呼ばれ、後に鎌倉新仏教を開く多くの僧侶たちがここで修行しました。